



平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析



カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語 A	<ul style="list-style-type: none"> 無解答率は年々減少している。 話合いの観点に基づいた情報の関係付け等、話すこと・聞くことに課題がある。 新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する問題は、正答率が高かった。 話合いの記録の仕方として適切なものを選択する問題は、正答率が低かった。
国語 B	<ul style="list-style-type: none"> 読むことについては全国平均との差は小さい。 話合いで、質問の意図を捉えたり、目的に応じて観点を整理したりすることに課題がある。 詩の表現の特徴として適切なものを選択する問題は、無解答率が低く正答率が高かった。 司会の発言の内容をまとめて書く問題は、無解答率が高く正答率が低かった。
算数 A	<ul style="list-style-type: none"> 無解答率は低くなった。 算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力を付ける必要がある。 比較量の求め方の式を選択する問題は、正答率が高かった。 小数の計算、減法と乗法の混合した整数の計算は、無解答率がやや高く正答率が低かった。
算数 B	<ul style="list-style-type: none"> 情報を基に論理的に考えることができはじめた。 記述する問題の無解答率が高く、解き方を書き表す機会を増やすことが必要である。 情報を整理して考え、小数倍の長さの求め方を記述する問題は、正答率が高かった。 示された情報を解釈し、適した図を選択する問題は、正答率がかなり低かった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析



・発表するときに、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していると答えている児童は、全国と比較してもその差が広がっている。各教科等の授業の中で組み立てを意識して発表する機会を増やしていくことが必要である。

・算数で学習したことを普段の生活で活用できるかを考えていると答えている児童は、全国と比較しても少ない。授業で習得した算数の学力を生活科や総合的な学習の時間の学習で積極的に活用し、生かしていく経験を増やしていく。

・自分で課題を立てて情報を収集整理し、発表していく学習活動に取り組んでいると答えている児童は、全国と比較しても多い。本校の総合オンラインワン研究の取組の成果である。今後も実践研究の充実を図っていく。

・授業で分からないことをその場で教師に尋ね解決を図っている児童の割合は、全国の2倍以上と高い。児童の問題解決に対しての教師の支援内容をより工夫し、学力向上へと結び付けていく。

2 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析



・1時間以上家庭学習している児童の割合は全国平均と比べても平日で27.7ポイント、休日で11.5ポイントもの開きがあり、学習習慣の確立に課題が見られる。そのために、学年ごとの学習時間のめやすを示し、

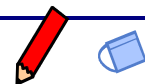
課題等の出し方の工夫をしながら家庭と連携しながら具体的な取り組み方を指導していく必要がある。

- ・自分で計画して学習に取り組んでいる児童の割合が平成25年度より増加した。しかし、全国平均には及ばない。継続して計画表等を活用し、見通しをもって家庭学習に取り組むように指導していく必要がある。
- ・読書については、全国平均と同程度まで向上が見られた。今後も、学校の図書館の活用を中心にしたりよい読書習慣の確立を図っていくことが必要である。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・生活習慣では、規範意識や挑戦意欲が、全国平均とは大きな開きが見られる。地域をよりよくする意欲も全国平均との開きが広がっている。しかし、研究テーマの年度末アンケート調査では、地域をよりよくしたいという意欲は高まる傾向にあるので、生活科や総合的な学習の時間、道徳等の取組とも関連付けながら、年間を通しての指導を進めていく必要がある。
- ・児童が悩み等についての相談する相手は、アンケート調査もとにした教育相談活動の成果として、教師を積極的に選択している。今後も継続して相談活動等の充実を図っていく。



3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組 ※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎学力向上のための特設時間の実施

- ・朝学習の時間に、「読む力」の育成のために、週に2回（月・木）「読書タイム」を設定する。また、基礎・基本の力を育成するために、週に1回火曜日を「国語タイム」、水曜日を「算数タイム」として設定し、全校で一斉に実施する。
- ・定着を図るためのドリル学習を重視する。教材は、漢字・計算ドリルを基本として使用するが、アシストシート（学習済み単元分）等も積極的に活用する。
- ・国語・算数の過去問題やアシストシート等を積極的に活用し、6年生は1・2月に「小学校まとめ道場」、5年生は2・3月に「実力アップ道場」を実施し、問題の解き方等の指導を行う。

◎過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・単元学習後に理解の度合いを測るものとして、過去問題やWEB問題、活用力を高めるワークを活用する。
- ・アシストシートや過去問題を宿題として活用し、答え合わせ等で確実な理解を図る。冬休み・春休みには、アシストシートやWEB問題、過去問題を組み合わせたプリント集を配布し、家庭での宿題・学習教材として活用する。

◎「読む」「書く」ことを習慣化

- ・国語科では、文章の内容を読み深めることができるよう実態に応じた個への支援を行うとともに、読み取ったこと、感じたことを伝え合い、発表し合う活動を学習に位置付ける。
- ・算数科では、自分の考えを式だけではなく、図や言葉で書かせて説明できるようにする。
- ・後から見直しても学習内容が想起できるノートの取り方やまとめ方ができるようにするとともに、授業のまとめ（分かったことや感想、自己評価等）を自分の言葉で書き表すようにする。単元の学習の途中で随時ノートの点検を行い、一人一人のがんばりを朱書等で評価する。

○「話す」力の向上

- ・聞き手を意識しながら組み立てを考えたメモ等を作成し、相手にうまく伝えられるような発表の仕方の指導を行う。
- ・朝・帰りの会等でスピーチの場を設定し、決められた条件の中で発表する経験を増やしていく。

○総合的な学習の時間・生活科の実践を通しての学力の定着

- ・教科等の関連を一層重視した学習展開を工夫し、教科等で身に付けた力を活用させる中で、学力の確実な定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組



◎宿題のスタンダード化

- ・自主学習ノートを活用し、自分の課題に応じた学習が計画的にできるよう指導する。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を宿題等で活用するように呼びかけるとともに、毎月担任がチェックをし、有効な活用を図る。
- ・保護者に対する家庭での読書の推奨と、読書カード等を使った読書の把握、ならびに読書時間を増やすための支援を行う。
- ・冬休み・春休みの課題として、アシストシートやWeb問題、過去問題を組み合わせたプリント集を活用する。

○学習の時間のめやすの再徹底

- ・学校・学級だより、学級懇談会の場等を通して、学年ごとの学習時間のめやす（学年×10分+10分）の徹底を図り、家庭との連携を深めながら実践できるようにする。

◎全国学力・学習状況調査の課題と今後の取組等を保護者へ周知

- ・学校だよりや学校のホームページで保護者に学校での学力向上の取組を伝えていくと同時に、学習習慣や生活習慣の改善にかかわる啓発を継続して行う。
- ・学級・学年懇談会で学級や学年の課題と取組状況を説明し、理解と協力を得るようにする。個人懇談会では、保護者と話し合って個別の課題を明確にするとともに学習習慣の育成等を家庭と連携して行うようにする。

※ 学校ホームページにも本校の結果並びに本市の概況を掲載しています。併せてご覧ください。